

予 算 要 求 資 料

令和5年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：農業費 目：園芸特産物対策費

事業名 ぎふ花き活用拡大推進事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 農産園芸課 花き係 電話番号：058-272-1111(内4113)

E-mail：c11423@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 22,478 千円 (前年度予算額： 10,068 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	10,068	8,600	0	0	0	0	0	0	1,468
要求額	22,478	2,059	0	0	0	0	0	0	20,419
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

- ・コロナ禍で冠婚葬祭やイベントの中止や規模縮小など開催方法が大きく変化しており、花き需要の低迷が続く中、県内花き生産額が急落している。
- ・花きの需要回復に向けて、花き振興企画コンペの開催や花き情報の発信、花飾り提案、体験教室の開催等により、落ち込んだ需要の回復を図る。
- ・併せて、令和6年度の国民文化祭花飾りコンテスト等を見据えて、機運醸成を図っていく必要がある。

(2) 事業内容

- ①花き振興企画コンペの開催
 - ・県産花きの活用振興のため、将来を担う若い世代を対象に斬新なアイデアを募集
- ②SNS等を活用した県産花き情報の発信
 - ・県産花き情報を一元化し、SNS等を活用して効果的に情報発信
- ③県産花き花飾りの推進
 - ・記者会見や県庁舎等に定期的に花飾りし、県産花きをPR
- ④花飾りコンテスト
 - ・暮らしの真ん中に県産花きを飾ってもらうコンテストの開催
- ⑤花で彩る暮らしの提案
 - ・商業施設内の「衣食住」空間に合わせて花装飾し、花のある暮らしを提案
 - ・花に対する疑問点を解決できる育て方教室や、花飾り体験教室の開催
 - ・生産者から直接おすすめの花を購入できる花マルシェの開催

(3) 県負担・補助率の考え方

- ・ 県の花き業界全体の活性化を図るためには、県の負担が妥当である。

(4) 類似事業の有無

- ・ 無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
人件費	312	審査員報償
旅費	176	費用弁償、業務旅費
需用費	2,584	事務消耗品、花材費
役務費	42	通信運搬費等
使用料	346	会議室使用料等
委託料	19,018	企画コンペ開催、SNS等の情報発信、花飾りコンテスト等
合計	22,478	

決定額の考え方

--

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- ・ ぎふ農業・農村基本計画 (令和3年度～7年度)
- ・ 清流の国ぎふ花き振興計画 (令和3年度～7年度)

(2) 後年度の財政負担

- ・ 県が継続して財政負担する。

(3) 事業主体及びその妥当性

- ・ 県の花き業界全体の活性化を図るためには、県が事業主体となることが妥当である。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・ぎふ花と緑の振興コンソーシアムを活用した積極的な連携事業を行うことにより、花きの需要拡大や花きの生産の担い手育成を図り、県花き産業の活性化に寄与する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R1)	R3年度 実績	R4年度 目標	R5年度 目標	終期目標 (R7)	達成率
①連携事業数	0事例	8事例	4事例	4事例	20事例	40%

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和 2 年度	<div style="border: 1px solid black; height: 100px; width: 100%;"></div>
	指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____ %
令和 3 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・学生等が提案する花き振興に関する企画に基づき、新商品や新サービス開発を実施 ・応募件数：30件 ・アイデア実現件数：8件
	指標① 目標：20事例 実績：8事例 達成率：40%
令和 4 年度	<div style="border: 1px solid black; height: 100px; width: 100%;"></div>
	指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____ %

令和6年度当初予算にて追加

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3:増加している 2:横ばい 1:減少している 0:ほとんどない	
(評価) 3	・県が花き振興企画コンペを開催し、コンソーシアム等と連携してアイデア実現に向けて協力することで、県産花きの魅力発信を図る。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3:期待以上の成果あり 2:期待どおりの成果あり 1:期待どおりの成果が得られていない 0:ほとんど成果が得られていない	
(評価) 3	・学生等の花きへの関心を高めることができ、花き業界の活性化に寄与している。
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2:上がっている 1:横ばい 0:下がっている	
(評価)	

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項 ・消費者ニーズに即した新商品・サービス開発、県産花き消費の啓発などを、いかに進めるかが課題である。
--

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか ・多様化するニーズに即した新商品・サービス開発や、県産花きのPR活動を行うことで、花きの需要・消費拡大をねらう。
--